

活動名		どんぐりの谷遊び				
概要	○どんぐりの谷をプレーパークとして、子どもたちが自ら遊びをつくる活動をする。					
ねらい	○フィールドや自然物を生かして自分たちで遊びを考える。 ○観察・採集・遊びを通して、自然物とふれあう。 ○既存の遊具などを用いて、思いきり体を動かす。					
関連教科等	生活・図画工作・体育・道徳					
指導形態	①自主活動で実施					
時期	通年	時間帯	日中	対象	幼児～小学校低学年	
場所	どんぐりの谷	人数	～50人程度	所要時間	1～3時間	
準備物	施設で準備できるもの			団体・個人で準備するもの		
	そり遊び用具、ネット、ヘルメット。			動きやすい服装、靴、ハンカチ、虫除け剤（マダニに効くもの）、必要に応じて子ども用スコップ、ままごと道具など、救急セット		
進め方・展開例						
内容			留意点			
活動前	○打ち合わせを行う。 ・実施の判断 ・ねらいの確認（子どもの自主的活動を基本） ・準備物の確認（どんぐりの谷に事前設置する遊具は、そり、ネット、の2種類、ヘルメット） ・安全上の留意点の確認 ・子ども10人に対して、見守り支援者1人が付くことが望ましい。			○雨天時は相談の上、実施判断をする。 ○できれば、現地でフィールドの範囲や遊具について確認する。 ○危険な動植物について注意を促す。（ウルシ、ハゼ、マムシ、スズメバチ、マダニ等） ○一般団体の場合、活動保険に入っていることが望ましい。		
活動の説明	○団体代表者からの説明を聞く。 ・自由遊びであること。 ・遊ぶフィールドの範囲。 ・安全上、気をつけることの確認。 ・ヘルメットをつけること。 ・活動時間の確認。			○子どもたちが説明内容を理解できているか確認する。 ○自由遊びに誘うため、制限事項は最小限に止める。		
展開	○フィールドの遊具、地形、自然物を生かして、自由に遊ぶ。 ○自分たちで遊びの内容や、ルールを考えながら遊ぶ。			○子どもたちの主体性を重視し、支援者は、見守りに徹する。 ○適度に声かけや評価をしながら、自由遊びが発展していくように誘う。 ○遊びを見つけられない子どもには、周囲の自然物の色、形、臭いなどに注目させる。 ○大きな怪我をしそうな遊びには、適切な声かけをしたり、止めたりする。		
まとめ	○遊んだ内容や感じたことなどを発表し合う。 ○日常と違うフィールドで発見したことを発表し合う。 ○支援者は、主体的に遊んだ姿を評価する。					
評価	○主体的に遊びづくりをすることができたか。 ○安全に気をつけて遊ぶことができたか。 ○フィールドの良さを感じることはできたか。					
発展	○自分が考えた遊びの面白さを、身近な人に話す。 ○次来た時に、このフィールドでやってみたいことを考える。					

